

令和5年度シラバス

Ⅱコース2年（文系）

日本大学東北高等学校

目 次

学校シラバス	… 1
年間指導計画Ⅱコース2学年	… 2～4
論理国語	… 5～7
古典探究	… 8～11
地理総合	… 12～14
日本史探究	… 15～17
世界史探究	… 18～21
倫理	… 22～27
数学Ⅱ・B	… 28～31
実践理科基礎（化学基礎）	… 32～36
実践理科基礎（生物基礎）	… 37～39
体育	… 40～44
保健	… 45～47
英語コミュニケーションⅡ	… 48～52
論理・表現Ⅱ	… 53～58
家庭基礎	… 59～64
情報Ⅰ	… 65～67
総合的な探究の時間	… 68～70

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

- 1 奉仕と思いやりの心を持つ 2 新校舎を大切に学ぼう 3 対策をして楽しもう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育, 教科指導を計画的に推進し, 学力の定着と向上を図り, 生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し, 生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し, 幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に, 学外からの出前講座, 教員による校内講座を行い, 幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し, グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で, 英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で, 英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に, ケンブリッジ大学・オーストラリア海外語学研修を実施する。(令和4年度は派遣中止)
自主的・主体的な学習への取り組みを通して, 社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し, 生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に, 春期特別指導を実施する。 4 大学進学に向けて, 各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して, 生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して, 人間的成長を促し, 円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して, 団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して, 心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して, 自主性や創造性, 協働性を身に付けるとともに, 仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して, 広く芸術に触れ, 親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて, 自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに, 安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画, 防災マニュアル(安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル)を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練, および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業, ホームルーム活動を通じて, 安全や健康について学習する。 4 交通安全教室, スマホ安全教室等を実施し, 生徒の危機管理意識を育成する。

◇年間行事計画

Ⅱ コース 2 学年

指導内容・行事

指導のねらい

4月	Welcome program	<ul style="list-style-type: none"> ・企画力の伸長 ・学年を越えた交流を深める
	二者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚 ・生徒間、教員との信頼関係の構築
	進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解と目標設定
	基礎学力到達度テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着、自己分析
	登校指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立
	シェイクアウト訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識の醸成
	学級懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・教員—保護者の信頼関係の構築
5月	校内体育大会	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
	保護者参観授業	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	1学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
	英検	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
6月	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	数検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
	1学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
	性の講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を守るための情報提供 ・予防啓発
	アカシヤ祭	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める ・創造力、表現力の伸長 ・他者と協働する力を育む
7月	ベネッセ総合学力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題設定
	三者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携 ・信頼関係の構築 ・現状の理解と目標の設定
	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力の伸長 ・地域社会への理解を深める

8月	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	大学探究プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚を図る ・自己理解を深める
	全統模試	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と応用力を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題設定
	8時間耐久自学	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立 ・集中力、忍耐力を育む
9月	進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の確認
	服装頭髪指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高める
	成果テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着
	スタディーサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・強み、弱みの把握 ・学習計画の立案
	保護者参観授業	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
10月	校内体育大会（運動会）	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
	2学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	ベネッセ総合学力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題設定
	芸術鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術についての造詣を深める
	英検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
11月	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性を育む ・自主研修の立案
	進学説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との進路情報の共有
12月	2学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る
	冬期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
1月	成果テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・学習活動の成果を測る
	服装頭髪指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高める
	ベネッセ総合学力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画の立案、課題設定
	英検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
2月	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	Bnesse 大学入学共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・1年後の入試を意識させる
	数検	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得によるキャリアアップ
	探求活動報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力、プレゼン力の育成
	II コース 2・3年生交流会準備	<ul style="list-style-type: none"> ・企画力の伸長 ・学年を越えた交流を深める
3月	3学期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る
	春季特別授業	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	スタディサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・強み、弱みの把握 ・学習計画の立案

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
論理国語	3	2	文理共通

教科書名 論理国語 (数研出版)

副教材名 三訂版 プログレス現代文総演習 標準編 (いいずな書店)

現代語練習帳 ことのは (いいずな書店)

1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	(1)ガイダンス ①授業の進め方 ②週課題, 小テスト	(1) ①予習・復習の仕方や授業の基本的な進め方について理解する ②週課題や小テストの内容や提出方法について理解する
	5	(2)「逆説」(教科書) 【一学期中間試験】	(2) ①文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の考え方に対する自分の考えを述べる。 ②筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。

	6	(1)「具体と抽象」(教科書)	(1) ①言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ②筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点が見える具体的な事例を日常生活の中から考える。
	7	【一学期期末試験】	
	【課題・提出物】授業ノート・週課題・読書感想文等		
	【1学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト等)×20%		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	(1)「言葉と創造」(教科書)	(1) ①言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ②抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。
	10	【二学期中間試験】	
	11	(1)「近代と現代の視点」(教科書)	(1) ①筆者が考える「問題の本質」の内容を論拠とともに読み取る。 ②科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。
	12	【二学期期末試験】	
【課題・提出物】授業ノート・週課題等			
【2学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト等)×20%			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	(1)「言葉と思考」(教科書)	(1) ①指定の段落構成に従い、筆者が提示する問題点を踏まえつつ、具体例や自分の意見を論述する。
	2		
	3	【三学期期末試験】	
【課題・提出物】授業ノート・週課題等			
【3学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト等)×20%			
【年間の学習状況の評価方法】 年間の定期試験の素点平均×80%+年間の平常点(授業態度・提出物・小テスト等)×20%			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	定期試験・小テスト・提出物
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・発表・提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	授業態度・小テスト・発表・提出物

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

予習・復習を前提として授業を行います。語句の意味調べや段落分け等を各自で行い、授業に臨んでください。

論理的な文章においては、文章構造に着目し、文や段落相互の関係を正しく理解することを心掛けましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
古典探究	2	2	文理共通

教科書名 高等学校 古典探究 (数研出版)

副教材名 新明説総合古典文法 (尚文出版) 古文攻略マストアイテム76 (桐原書店)

解法古文単語350 (数研出版)

三訂版 プログレス古典総演習 標準編 (いいずな書店)

古典文法集中トレーニング 敬語・識別編 (いいずな書店)

精選漢文 (尚文出版) 精選漢文 基本練習ノート (尚文出版)

体系漢文法演習 (数研出版)

1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	(1)ガイダンス ①授業の進め方 ②週課題, 小テスト	(1) ①予習・復習の仕方や授業の基本的な進め方について理解する ②週課題や小テストの内容や提出方法について理解する
	5	《古文》 (1)「説話」(教科書) 《漢文》 (2)「故事」(教科書)	(1) ①前年度学習した文法事項を確認するとともに、古文の基本的な読み方を復習する。 (2) ①前年度学習した漢字の意味や句形を確認するとともに、漢文の基本的な読み方を確認する。

	6	【一学期中間試験】 《古文》 (1)「随筆」(教科書) 《漢文》 (2)「文章」(教科書)	(1) ①筆者のものの見方や考え方と、自分の生活や現代の社会とを照らし合わせて内容を理解する。 (2) ①話の展開や描写を注意深く読み解くとともに、作品が生まれた思想的な背景について理解する。
	7	【一学期期末試験】	
	【課題・提出物】 授業ノート・週課題・創作(俳句・短歌・詩・小説)等		
	【1学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト等)×20%		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	《古文》 (1)「歌物語」(教科書) 《漢文》 (2)「思想」(教科書)	(1) ①物語中の歌について、誰がどこで詠んだ歌であるかを確認し、主題を考える。 (2) ①諸子百家の文章に見える考え方から、現代社会に通用する部分を考察する。
	10	【二学期中間試験】 《古文》 (1)「物語」(教科書)	(1) ①長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取るとともに、平安時代の物語文学への理解を深める。
	11	《漢文》 (2)「漢詩」(教科書)	(2) ①单元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。
	12	【二学期期末試験】	

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	定期試験・小テスト・提出物
思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・発表・提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	授業態度・小テスト・発表・提出物

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

予習・復習を前提として授業を行います。古典の文章読解においては、文法事項の確認・現代語訳を各自で行い、授業に臨んでください。

古文においては、文法事項を理解することはもちろんですが、それをいかに用いて文章を読むことができるかが大切です。

漢文においては、漢字の意味や句形を理解するとともに、文法構造に着目して学びましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
地理総合	2	2 学年	Ⅱコース共通

教科書名 高等学校新地理総合（帝国書院）

新詳高等地図（帝国書院）

副教材名 新詳地理資料 COMPLETE 2023（帝国書院）

1. 科目目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を学び、課題を追求・解決することにより、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きることができる資質、能力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1. ガイダンス 2. 日本の地形、日本の気候 3. 地震・津波による災害と、被災地の取り組み	○ 日本の自然環境の特色を理解し、人間生活との関わりについて考察する。 ○ 自然災害への備えや防災対策の重要性について多面的・多角的に考察し、表現する。
	5	4. 火山の恵みと災害、火山と共生する地域の取り組み 5. 気象災害と災害への取り組み 6. 減災の取り組み、被災地への支援 1 学期中間試験 （教科書 P190～218）	○ ハザードマップなど地理情報について、情報を収集し、まとめる地理的技能を身につける。 ○ よりよい社会の実現を視野に、課題などを主体的に追求・解決しようとする態度を養う。
	6	1. テスト返却・解説 2. オセアニアの自然環境と文化 3. オセアニアの産業と人々の生活 4. 東南アジアの自然環境と文化 5. 東南アジアの産業と人々の生活 6. 世界の言語と人々の生活文化 7. 世界の宗教と人々の生活文化	○ 自然豊かなオセアニアの産業（農業・鉱工業）と、人々の生活について理解する。 ○ 東南アジアの多様な民族や自然環境、産業（農業・工業）について理解する。また、ASEAN 諸国の経済発展と日本との結びつきについて考察する。
	7	1 学期期末試験 （教科書 P78～89）	○ 世界の言語・宗教の特徴を理解し、人間生活との関わりについて考察する。
【課題・提出物】 ・授業ノート、プリント			
【第 1 学期の評価方法】 ① 定期試験の成績（90%） 知識・理解の確認のほか、思考力・表現力を問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点（10%） 授業時の学習過程で、評価の観点の 4 項目について評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	1. イスラーム圏の自然環境と文化	○ イスラームと人々の生活との関わりについて理解する。また、石油収入による生活の変化や新たな争いなど、地域が抱える課題について考察する。
		2. イスラーム圏の産業と人々の生活	
	10	3. インドの自然環境と文化	○ ヒンドゥー教と人々の生活との関わりについて理解する。また、経済成長や ICT 産業の発達による生活の変化について考察する。
		4. インドの産業と人々の生活	
		5. 歴史的背景が生活に与える影響	
		6. ラテンアメリカの自然環境と文化	
	11	7. ラテンアメリカの産業と人々の生活	○ ラテンアメリカ、アフリカ、ロシアの文化と人々の生活について理解する。また、経済成長や産業の変化による格差の拡大と、生活の変化について考察する。
		8. アフリカの自然環境と文化	
		9. アフリカの産業と人々の生活	
		10. ロシアの産業と人々の生活	
2 学 期	12	2 学期中間試験 (教科書 P90～P119)	
		1. テスト返却・解説	○ アメリカ合衆国の自然環境や産業（農業・工業）について理解する。また、多文化・多民族社会の現状を踏まえて、今後の課題について考察する。
		2. アメリカ合衆国の知識産業と鉱工業	
		3. アメリカ合衆国の農業	
		4. アメリカ合衆国の文化と人々の生活	
		5. 東アジアの経済成長と歩み	
		6. 経済成長による中国の生活の変化	
		7. 経済成長による韓国の生活の変化	
		8. EU 統合と人々の生活	
		9. EU 統合による農業への影響	
10. EU 統合による工業や社会への影響			
		2 学期期末試験 (教科書 P126～143)	○ 中国の自然環境や社会（民族・人口）、産業（農業・工業）について理解する。また、高度経済成長の中で、東アジアが抱える諸問題について考察する。
			○ ヨーロッパの自然環境や文化、産業（農業・工業）について理解する。また、EU 統合にともなう生活の変化や今後の課題について考察する。
		【課題・提出物】	
		・授業ノート、プリント、夏季休業中の課題	
		【第 2 学期の評価方法】	
		① 定期試験の成績 (90%) 知識・理解の確認のほか、思考力・表現力を問う問題も出題する。	
		② 学習態度等の平常点 (10%) 授業時の学習過程で、評価の観点の 4 項目について評価する。	
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12	1. 地球的課題とその解決に向けて	○ 地球的課題の背景にある経済格差について理解し、解決に向けての取り組みや私たちが出来ることを考察する。
		2. 多様な地球環境問題	
1	1	3. 熱帯林破壊への対策	○ 熱帯林破壊や地球温暖化の原因と影響、解決に向けた課題や取り組みなどを考察する。
		4. 地球温暖化への対策	
		5. 世界のエネルギー・鉱産資源	
		6. エネルギー利用の現状と課題	
		7. エネルギー問題への取り組み	
		8. 世界の人口と人口問題	
			○ エネルギー問題の課題と、再生可能エネルギーの現状について理解する。
			○ 急増する世界人口や、発展途上国と先進国の

2	9. 人口問題への取り組み 10. 世界の飢餓と飽食 11. 食料問題への取り組み 12. 世界の都市の発達 13. 世界の都市・居住問題 14. 都市・居住問題への取り組み	人口問題、人口移動と移民などについて理解する。 ○ 食料需要の偏りと、食料問題の解決に向けた取り組みについて考察する。 ○ 発展途上国、先進国それぞれの都市・居住問題について理解し、よりよい居住環境の実現のために私たちが出来ることを考察する。
3	3 学期期末試験 (教科書 P146～185)	
【課題・提出物】 ・授業ノート、プリント、冬季休業中の課題		
【第3学期の評価方法】 ① 定期試験の成績 (90%) 知識・理解の確認のほか、思考力・表現力を問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 (10%) 授業時の学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 ① 定期試験の成績 (90%) 知識・理解の確認のほか、思考力・表現力を問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 (10%) 授業時の学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。また、地図や地理情報システムなどを用い、資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○授業の様子 ○授業ノート ○定期試験
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、その内容を効果的に表現する力を身に付けている。	○授業の様子 ○授業ノート ○定期試験
主体的に学習に取り組む態度	授業を通して、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度で学習している。	○授業の様子 ○授業ノート

4. 学習サポート (事前・事後学習等について)

地理の授業は自分の視野を広げることが目的です。まずは興味のある分野 (スポーツ・音楽・食・ファッション・観光など) を通じて、世界のさまざまな文化や人々の生活に接してみてください。さらに、新聞やニュースなどから現代社会の諸問題にも関心を持ってほしいと思います。

地理に興味・関心がある生徒、また質問などがあれば気軽に担当教員に声をかけてください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
日本史探求	3	2 学年	Ⅱコース文系(選択者)

教科書名 詳説日本史 (山川出版社)

副教材名 最新 日本史図表 (第一学習社) ウィニングコンパス 日本史の整理と演習 (とうほう)

1 科目目標

○我が国の歴史を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、国民としての自覚と国際社会に生きる現代人としての資質を養うと共に、歴史事象について公正に判断する思考力や理解力を身に付ける。

○我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、各時代の特色とその変遷を捉え、歴史と現代の結びつきを認識する能力を身に付けると共に、主体的に歴史を学ぶ姿勢を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	・人類史を踏まえたうえで日本列島の誕生、旧石器時代人の生活を理解する。 ・諸資料から縄文時代や弥生時代の人々の生活の変化や特徴を理解する。 ・古墳文化の変遷や氏姓制度を理解する。	
	5	2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京への道	・東アジア情勢を踏まえた上で、日本が目指した国家の姿を理解する。 ・大化改新や大宝律令を通して律令国家の実現に向けた古代政治の変遷を理解する。	
		◎1 学期中間試験		
		3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	・諸資料から飛鳥・白鳳文化の特徴を理解する。 ・奈良時代から平安時代初期にかけての律令国家の変遷を理解する。	
	6	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	・摂関政治や国風文化が始まった背景を国内情勢と東アジア情勢も踏まえたうえで理解する。 ・諸資料から武士が誕生した理由を理解する。	
		第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり	・院政の特徴を摂関政治と比較し理解する。	
	7	2 院政と平氏政権	・保元の乱と平治の乱の史的意義を理解する。 ・平氏政権の成立と失墜を理解する。	
		◎1 学期期末試験		
		【課題・提出物】		
		①内容の項目ごとの確認プリント ③授業内で課されたワークシートや授業ノート		

	<p>【1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験素点(80%)：授業で扱った内容を大学共通テストなどの傾向も踏まえて出題する。</p> <p>②平常点(20%)：学習への取り組み状況(課題提出、授業ノート)、授業への姿勢など。</p>		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立過程を諸資料を基に理解する。 ・執権政治の特徴とその変遷を理解する。 ・武家社会の特色を理解する。 ・資料から元寇が社会に与えた影響を理解する。 ・鎌倉文化の特色を理解する。
	10	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭	<ul style="list-style-type: none"> ・倒幕から南北朝時代にいたる過程を理解する。 ・室町幕府の成立と衰退を外交関係や庶民の台頭も踏まえて理解する。
		◎2学期中間試験 3 室町文化	<ul style="list-style-type: none"> ・室町文化の特徴を理解するとともに、文化が発展した背景を理解する。
	11	4 戦国大名の登場 第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱によって近世が幕開けしたことを理解し、戦国時代の変遷を理解する。 ・桃山文化の特徴を理解する。
	12	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府が安定した時代をもたらした背景を理解する。
	<p>【課題・提出物】</p> <p>①夏期休業中の課題(1学期の復習内容や探究課題など)</p> <p>②内容の項目ごとの確認プリント</p> <p>③授業内で課されたワークシートや授業ノート</p>		
	<p>【2学期の評価方法】</p> <p>①定期試験素点(80%)：授業で扱った内容を大学共通テストなどの傾向も踏まえて出題する。</p> <p>②平常点(20%)：学習への取り組み状況(課題提出、授業ノート)、授業への姿勢など。</p>		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> ・武断政治から文治政治への切り替えの背景を理解する。 ・江戸時代の経済・産業・交通などが現代の日本や東京の基礎を築いたことを理解する。
	2	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代の道 4 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府が改革を必要とした背景を国内外の情勢も踏まえて理解する。 ・資料や地図から外国船の接近と幕府の対応の変化について理解する。 ・江戸時代の文化の変遷を理解する。

3	第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 ◎3学期期末試験	・開国とそれに伴う幕政の変化を理解する。 ・幕府滅亡にいたった過程と新政府が目指した政治体制を理解する。 ・明治維新が日本にもたらしたものを、江戸時代と比較することで理解する。
	【課題・提出物】 ①冬期休業中の課題(2学期の復習や探究課題など) ②内容の項目ごとの確認プリント ③授業内で課されたワークシートや授業ノート	
	【3学期の評価方法】 ①定期試験素点(80%)：授業で扱った内容を大学共通テストなどの傾向も踏まえて出題する。 ②平常点(20%)：学習への取り組み状況(課題提出、授業ノート)、授業への姿勢など。	
【年間の学習状況の評価方法】 ①年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	日本史の諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から日本史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けようとしている。	定期考査 授業プリント レポート課題
思考・判断・表現	日本史に関わる事象の意義、伝統と文化の特色や、現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題解決のために必要な幅広い視野や、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養おうとしている。	レポート課題 定期考査 ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	日本史に関わる諸課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本と世界の繋がりを意識したうえで現代社会に求められる日本人としての役割を果たそうとしている。	授業態度 ワークシート 課題への取り組み

4 学習サポート(事前・事後学習等について)

<p>○授業中はノートをとると共にメモ書きを増やしていく。板書事項を写すだけでは、ただの作業であり、真の学力は身につかない。授業内容に関する質問も大歓迎である。</p> <p>○事前学習は歴史に興味をもつことである。日常の当たり前に疑問をもつ習慣を身に付けること。そのためには日頃から歴史に関わる事柄以外にも多くの情報に触れること。</p> <p>○授業ごとの復習を徹底的に行う。一夜漬けの学習では学力・定期試験の点数には結びつかない。地道な積み重ねを確実に増やしていくことが学力向上の最大の秘訣である。</p> <p>○「歴史＝暗記」ではない。地道な積み重ねの先にある歴史の探求こそが学習のメインである。</p>

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
世界史探究	3	2学年	Ⅱコース文系

教科書名 詳説 世界史 (山川出版社)
 副教材名 最新世界史図説タペストリー (帝国書院)
世界史B用語集 (山川出版社)

1. 科目目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解する。
- ② 世界の歴史における文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。
- ③ 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	古代オリエント文明とその周辺 オリエント エーゲ文明	<ul style="list-style-type: none"> ・諸民族の興亡を整理することにより、メソポタミア全体の流れを理解する。 ・南アジア世界の多様性を、民族・身分・社会構成・宗教などの各視点から理解する。 ・中国の古典文明を整理し、中国の風土の理解や、初期王朝の形成を理解する。・中国の分裂と動乱期を整理し、周辺民族の存在を含めて理解する。 ・中国の分裂と動乱期を整理し、周辺民族の存在を含めて理解する。 ・ポリス社会の形成と基本原理を押さえ、ギリシア世界の統一性を理解する。 ・共和政ローマの成立を整理し、ローマ帝国の成立とヨーロッパ文化の原点を確認する。・ユダヤ教との比較から、キリスト教の世界宗教的な性格をつかむ。
	5	南アジアの古代文明 中国の古代文明 中央ユーラシアと東アジア世界 秦・漢帝国 中国の動乱と変容 東アジア文明圏の形成 <u>1学期中間試験</u>	
	6	南アジア世界と東南アジア世界の形成 仏教の成立と南アジアの統一国家 東南アジア世界の形成と展開 西アジアと地中海周辺の国家形成 ギリシア人の都市国家 ローマと地中海支配 <u>1学期期末試験</u>	
【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノートの点検 ・11月進研過去問題（夏季休業中課題）⇒この範囲から9月の「成果テスト」を行います。			
【第1学期の評価方法】 ① 定期試験の成績（80%） 知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点			

		<ul style="list-style-type: none"> ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を評価する。 	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	成果テスト	
	10	イスラーム教の成立とヨーロッパの形成 イスラーム政権の成立 ヨーロッパ世界の形成 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 イスラーム教の諸地域への伝播 西アジアの動向 <u>2学期中間試験</u> ヨーロッパ世界の変容と展開 西ヨーロッパ封建社会とその展開 東ヨーロッパ世界の展開 西ヨーロッパ世界の変容 西ヨーロッパの中世文化 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 アジア諸地域の自立化と宋 モンゴル大帝国 大交易・大交流の時代 アジア交易世界の交流 アジアの諸帝国の繁栄 オスマン帝国とサファヴィー朝 ムガル帝国の交流 清代の中国と隣接諸国 <u>2学期末定期試験</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教の誕生と、拡大を理解する。 ・イスラーム世界の周辺地域への広がり、形成された文明を理解する。 ・フランク王国が台頭した政治的、宗教的理由を理解する。 ・西ヨーロッパ世界と東ヨーロッパ世界の形成を理解する。 ・西欧諸国の形成と各国の歴史的特色、西欧の中世文化を含めて理解する。 ・十字軍が西ヨーロッパ中世世界変貌の大きな契機になったことを理解する。 ・清の成立過程を整理し、東アジアの周辺国家との関係を理解する。 ・近代イスラーム諸王朝が、独自の文明を繁栄させたことを理解する。 ・内陸アジア、東アジア世界の展開を整理し、モンゴル帝国出現の背景を理解する。 ・税の流通がもたらした社会的・経済的変化を理解し、税制の変化に注目する。 ・明朝滅亡の原因を、内外両面から考察してみるようにする。 ・西欧諸国の繁栄と動きを、海外進出と宗教改革の二つの面から行われたことを理解する。 ・具体的な事例とともに、主権国家・重商主義の概念を理解する。
		【課題・提出物】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノートの点検 ・1月進研過去問題（冬季休業中課題） ⇒この範囲から1月の「成果テスト」を行います。 	
		【第2学期の評価方法】 ① 定期試験の成績（80%） 知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。	

	② 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を評価する。	
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 成果テスト 近代ヨーロッパ世界の動向 ルネサンス 宗教改革 主権国家体制の成立 オランダ・イギリス・フランスの台頭	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスに見られた農業社会から工業社会への急 速な移行が、現代社会の原点であることを理解する ・大航海時代とルネサンスの背景を、世界史的視野から具体的に考察する。 ・宗教改革が、社会改革運動として政治的変革に大きな影響を及ぼしたことを理解する。 ・産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命が社会に与えた影響を理解する。
	2 北欧・東欧の動向 科学革命と啓蒙思想 産業革命と環大西洋革命 産業革命 アメリカ合衆国の成立と発展 フランス革命とナポレオンの支配 中南米諸国の独立	
	3 3学期末試験	
	【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノートの点検	
	【第3学期の評価方法】 ①定期試験の成績（80%） 知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を評価する。	
	【年間の学習状況の評価方法】 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。	

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト
思考・判断・表現	授業で得た知識をもとに、歴史的イベントの因果関係を解き明かすことができる。 先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。	・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	世界史に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにすることができる。	・授業時の様子 ・課題

4. 学習サポート

- ・随時、学習相談を実施するので、理解の難しい所、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。
- ・歴史に興味・関心を持ってほしい。授業中にお勧めの本の紹介もするので、是非読んでほしい。
- ・実力試験対策の過去問題プリントは任意だが、提出者に対しては添削指導を実施するので、積極的に取り組みましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
倫理	2	2 学年	Ⅱコース文系

教科書名 高等学校 新倫理 (清水書院)
副教材名 テオリア 最新倫理資料集 (第一学習社)
用語集 倫理 新版 (清水書院) 進研 WINSTEP 倫理 改訂版 (ラーンズ)

1 科目目標

- 自我の目覚める高校時代は人間や社会について関心を持ち、人生観・世界観についての思索を深め、人間形成への大きな一歩を踏み出す時期である。その時期に「目に見えない大切なもの」を求め、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探求し、生徒自身が世界観・人生観を形成していく。
- 思想は、歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、歴史的・有機的な関連性がある。先哲の思想を学ぶことで、物質文明の繁栄が謳われる反面、人間性や人間の尊厳の喪失が指摘される今日の社会において、人間とは何か、自分はどうか深く探求していく。
- 教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、大学入学共通テストに対応できる力を養っていく。
- 演習問題をこなし、実践力を養う。(定期試験の中にも大学入学共通テスト(旧センター試験)や私大の過去問題を活用する)
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるようにコミュニケーション能力を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第3編 現代をかたちづくる倫理 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究 第1節 人間の尊厳 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界	○人間尊重の光と影を見据えながら、真の意味での人間の尊厳について考え、理解する。
	5	第2節 真理の認識—経験論と合理論 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重—ベーコン 3 理性の光—デカルト	○モンテーニュやパスカルの思想を通して、モラリストが後の思想に与えた影響を理解する。 ○ベーコン、デカルトの思想を正しく理解する。
		第3節 民主社会と倫理 1 社会契約説と啓蒙思想	○ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説の違いを理解する。

	<p>2 人格の尊厳と自由—カント 3 自己実現と自由—ヘーゲル 4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福 1 学期中間試験</p> <p>第4節 現代社会と個人 1 資本主義社会への批判 2 人間存在の地平—実存主義 3 世界と存在そのもの—現象学 4 公共性と正義 5 社会参加と他者への奉仕</p> <p>第5節 近代の世界観・人間観の問いなおし 1 理性主義への反省 2 言語論的展開 3 科学観の転換</p> <p>第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と精神文化 第3節 近世社会の思想 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 1 学期期末試験</p>	<p>○カント・ヘーゲル・功利主義・プラグマティズムの思想を手がかりに、自己実現と幸福について考え、理解する。</p> <p>○マルクス・エンゲルスの思想を、それ以前の社会主義思想と比較することで、その内容を考察し、理解する。</p> <p>○先哲の思想を手がかりに、個人のあり方と社会との関わりについて考える。</p> <p>○ウイトゲンシュタインの思想を通して、分析哲学が近代の人間観・世界観に与えた影響を理解する。</p> <p>○中国で生まれた儒教が、外来思想として移入し、その後江戸時代に儒学として日本化され、現代の生活に影響を与えていることを正しく理解する。</p>
<p>【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>		
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
8	夏期進学補習 3 古学	

2 学 期	9	4 国学と日本文化 5 近世庶民の思想 6 近代的国家への道 第2章 日本の近代化と人々の生き方 第1節 西洋近代精神の摂取 1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突 第2節 近代的個人の自覚 1 近代的自我の成立と個人主義 2 社会改革の思想 第3節 主体的な生き方と価値観の模索 1 近代日本の哲学者 2 近代日本の思想傾向への反省 3 現代日本と私たちの課題 2学期中間試験 第1編 現代を生きる自己の課題 第1章 個性的な主体としての自己 1 心の機能と個性 2 パーソナリティの形成と「私」 第2章 心と行動をめぐる探究 1 人間の活動を支える心 2 認知のしくみ 3 生涯にわたる発達 第2編 人間としての自覚 第1章 哲学の始源：ギリシア思想 1 神話から哲学へー自然哲学者たち 2 知と徳をめぐる問いーソクラテス 3 理想主義的なあり方ープラトン 4 現実主義的なあり方ーアリストテレス 5 幸福をめぐる問いーヘレニズムの思想 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第1節 愛の教えーキリスト教 1 ユダヤ教	○幕末・明治期に西洋思想を積極的に摂取し、「文明開化」に努めた思想家たちの行動を通して、日本の「近代化」へ与えた精神的な影響を理解する。 ○近代日本を代表する哲学者・文学者等の思想を学ぶことで、現代の我々にどのような影響を与えているかを理解する。 ○最も盛んな時期である高校生の年代を通して青年期の特徴について理解する。 ○青年期の特徴を捉えるとともに、アイデンティティの確立が個性形成の第一歩であることへの理解を深める。 ○心理的な働きを通して、社会に適応することと人格形成の重要性を理解する。 ○哲学とは何か。私たちは自己の人生を有意義なものとするために、どのような生き方をすべきか考え、実践していかなければならない。先哲の思想を学習し、自己の生き方、あり方を考える。 ○ソクラテスに始まるギリシャ思想を通じて、愛知の精神こそが哲学の出発点であることを理解する。 ○「原罪」と「救い主による贖罪」、「復活信仰」など、キリスト教の基本的な考え方について理解する。
	10		
	11		

	12	<p>2 イエスの思想</p> <p>3 世界宗教への展開</p> <p>第2節 戒律と平等の教え ーイスラーム教</p> <p>2学期期末試験</p>	<p>○イスラームの基本的な考え方や理念について学び、キリスト教やユダヤ教の類似点や相違について理解する。</p>
<p>【課題・提出物】</p> <p>中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>			
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績</p> <p>教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内で算出）</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<p>冬期進学補習</p> <p>第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教</p> <p>第1節 智慧と慈悲の教えー仏教</p> <p>1 バラモン教</p> <p>2 仏陀の思想</p> <p>3 仏教とその後の展開</p> <p>第2節 仁と礼の教えー儒教</p> <p>1 儒家の教え</p> <p>2 儒教の展開</p> <p>3 道家の思想</p>	<p>○仏陀の生涯と、その基本的な考え方について理解する。</p> <p>○孔子の思想の中心概念である「仁」と「礼」について理解し、現代生活においてこれらを実践することの意義について考える。</p> <p>○孔子が目指した理想的な社会について理解し、現代社会においても政治に求められる道徳の普遍性について考える。</p>
	2	<p>第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>第1章 日本の風土と精神文化</p> <p>第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観</p> <p>1 風土と日本人の生活</p> <p>2 日本における神の観念</p> <p>3 神と仏の出会い</p>	<p>○我々の生きている日本という風土が、人と自然の関わりにおいて持つ特殊性について理解する。</p> <p>○日本人として、伝統的文化を振り返りながら、そこに込められた人々の知恵を自覚する。</p>

3	<p>第2節 日本人の仏教受容</p> <p>1 古代仏教の思想</p> <p>2 鎌倉仏教の思想</p> <p>3 学期期末試験</p> <p>春期特別授業</p> <p>第5編 現代における諸課題の探究</p> <p>第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題</p> <p>1 環境と倫理</p> <p>2 生命と倫理</p> <p>3 科学技術の発展とその課題</p> <p>第2章 社会や文化にかかわる諸課題</p> <p>1 文化や宗教の多様性と倫理</p> <p>2 国際平和と人類の福祉</p>	<p>○最澄・空海の思想の相違点と類似点を正しく理解する。</p> <p>○平安仏教と鎌倉仏教の違いを考察し、正しく理解する。</p> <p>○環境倫理、生命倫理の分野を学ぶことで、現代における倫理的課題について理解する。</p> <p>○文化・宗教等の違いを通して、国際社会における多様性と平和共存について考える。</p>
<p>【課題・提出物】</p> <p>期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>		
<p>【3学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績</p> <p>教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内で算出）</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>各学期の中間試験は、定期試験の素点である。</p> <p>総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。</p> <p>○平常点は以下を踏まえて、20%以内で算出する。</p> <p>①倫理に対する興味と関心</p> <p>②授業に対する意欲と関心</p> <p>③課題等への取組み（宿題等）</p> <p>④年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）</p>		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	倫理の授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。また、授業で得た知識をもとに、現実の事象を倫理的に解き明かすことができるようにしている。	定期試験・小テスト・提出物
思考・判断・表現	先入観にとらわれず、公平・公正な立場から物事を考察する力を伸ばし、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・提出物
主体的に学習に取り組む態度	倫理に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、自分とは異なる考えを持つ他者を理解する姿勢を身につけようとしている。	授業態度・小テスト・提出物

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

社会科は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、倫理は過去に生きた人々の思想を知るだけではない。語句の暗記だけでなく、背景などにも関心を抱き、身近に感じることで理解が深まっていく。そのためには、授業を受け身で臨むのではなく、自発的に調べ、わかりにくいところがあれば、お互いに質問しあい、理解することに努めてほしい。

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ～ 12 (1)	指数・対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指数関数と対数関数の相互関係を学び、計算に習熟する。 □ 指数関数と対数関数の関係が分かり、また、公式が使いこなせる(①分析力) □ 図やグラフを利用して、変数変換後の文字の動く範囲を調べられる(②翻訳力) □ 置き換えをして 2 次関数の問題に帰着させられる(③目標設定力)
		微分・積分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な関数の挙動や、図形の面積などを求める。 □ 極限や微分、積分の定義を身に付ける(①分析力) □ グラフを利用して「関数⇔方程式」「関数⇔不等式」といった具合に問題を言い換えられる(②翻訳力) □ パラメーターが入ったときにどの部分が変化するかを見抜ける(③目標設定力)
		数列	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規則正しく並んだ数の性質を学ぶ。 □ 与えられた条件から、どの公式や考え方をいれればよいのかが分かる(①分析力) □ 漸化式や群数列の問題を解くことができる(④遂行力)
【課題・提出物】			
教科担当者の指示に従うこと			
【第 2 学期の評価方法】			
定期試験の成績を基本とする。平常点を 20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ～ 2	数列	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規則正しく並んだ数の性質を学ぶ。 □ 与えられた条件から、どの公式や考え方をいれればよいのかが分かる(①分析力) □ 漸化式や群数列の問題を解くことができる(④遂行力)

	確率分布と統計的な推測	行力) <ul style="list-style-type: none"> ・統計学の基礎を学ぶ。 □分散や標準偏差など、各種統計の用語とその意味を理解し活用できる。 (①分析力②翻訳力)
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと	
	【第3学期の評価方法】 1, 2学期までの成績を基本とする。平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。	
	【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。	

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能 ②翻訳力	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	定期試験、 成果テストや 小テスト
思考・判断・表現 ③目標設定力	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	定期試験、 成果テストや 小テスト
主体的に学習に 取り組む態度 ①分析力 ④遂行力	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う	提出物の状況、 他者との協働の様子、 各種提出物など

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違える事をしないと)わからないし、出来るようにならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違

いをしない。

- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚してる人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は**復習型**の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ**自分オリジナルの参考書**が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「**誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)**」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方…アドバンス α や Focus Gold を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→アドバンス α , Focus Gold *マーク 1~2
- ・ 考える力をつけたい→アドバンス α , Focus Gold *マーク 3~4
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。文系であれば与えられた課題を解ききること。**家庭学習では「計算力養成」(③目標設定力の向上)をメインに行うこと。(Classi ロイロノートを大いに活用すること)**
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。
- ・ 達成度が低い生徒や、実力十分でさらに力を伸ばさせそうな生徒に対して、全員追試や分野別補習を実施する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践理科基礎(化学基礎)	1	2	文系クラス

教科書名 化学基礎 academia (実教出版)

副教材名 ESSENCE NOTE 化学基礎 (啓林館) 新インプレス化学基礎ノート (浜島書店)

1 科目目標

化学的な物事、現象に関する基本的な原理、法則、語句の意味を理解し、身の回りの物事、現象を化学的に探求する方法を身につける。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	3章 物質の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・生成した塩の反応を理解する。 ・中和反応の関係をを用い、酸、塩基のモル濃度と体積の求め方を身につける。 ・中和滴定(中和反応の実験)で使用する器具や操作について学習する。 ・滴定曲線(実験から得られるグラフ)の種類について学習する。 	
		2節 酸と塩基		
		3 中和反応と塩		
		4 中和滴定		
	5	6	3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素、水素、電子の授受から物質を分類する方法を、身につける。 ・酸化数の定義を理解する。 ・酸化剤、還元剤の定義を理解する。
			1 酸化と還元	
	7	1 学期中間試験	2 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な酸化剤、還元剤の反応式の書き方を学習する。 ・酸化還元反応式の書き方を学習する。 ・酸化剤と還元剤の量的関係について学習する。
			1 学期期末試験	
			3 酸化還元反応の起こりやすさ	

	【課題・提出物】・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート		
	【1学期の評価方法】		
	① 定期試験の成績(80%) ・知識・理解の確認とともに、実験について問う記述式問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	3 酸化還元反応の起こりやすさ 総復習 1章 物質の構成 1節 物質の探求 1 物質の種類と性質 2 化合物と元素 3 物質の三態と熱運動 2節 物質の構成粒子 1 原子の構造	・様々な反応の様子を電子を用いた式で表す方法を身につける。 ・純物質と混合物を分類、物質の精製操作の仕組みと注意点について理解する。 ・化合物と単体、元素と単体の分類、同素体の意味を理解する。 ・粒子の熱運動、絶対温度について理解する。 ・原子の構造(原子核、陽子、中性子、電子)とその表し方(原子番号、質量数)、同位体について理解する。 ・電子の存在の仕方(電子殻、最大収容電子数、価電子、希ガス原子の電子配置)を理解する。 ・周期律と周期表を理解する。
	10	2 学期中間試験 2 イオンの生成	・原子からイオンができる仕組みを理解する。 ・生成したイオンのイオン式、価数、名称を理解する。 ・イオン化エネルギー、電子親和力、イオン半径を理解する。 ・周期律を理解する。また、周期表を用い、原子半径・イオン半径の大小関係を判断できるような力を育成する。
	11	3 周期表	・周期律を理解する。また、周期表を用い、原子半径・イオン半径の大小関係を判断できるような力を育成する。

	11	<p>2章 物質と化学結合</p> <p>1節 イオン結合</p> <p>1 イオン結合</p> <p>2 イオン結晶</p> <p>2節 共有結合と分子間力</p> <p>1 共有結合と分子間力</p> <p>2 共有結合からなる物質</p> <p>3節 金属結合</p> <p>1 金属結合</p> <p>2 金属</p> <p>4節 化学結合と物質</p> <p>1 物質の分類</p> <p>2 金属結合からなる物質と その利用</p> <p>3 イオン結合からなる物質と その利用</p> <p>4 共有結合からなる物質と その利用</p> <p>2学期期末試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン結合の仕組みとその結合で生成したイオン結晶の性質、表し方(組成式)を理解する。 ・共有結合の仕組みとその結合で生成した共有結晶、分子結晶の性質、表し方(分子式、電子式、構造式)を理解する。 ・分子模型を用い分子の構造を理解する。 ・共有結合の例外としての配位結合を理解し、その結合の仕方が判断できる力を身につける。 ・電気陰性度と分子の極性の関係を理解する。 ・金属結合の仕組みとその結合で生成した金属結晶の性質、構造(体心立方格子、面心立方格子、六方最密構造)を理解する。 ・化学結合と各結晶の分類を理解する。
	12		
【課題・提出物】・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート・夏季休業中課題			
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績(80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の確認とともに、実験について問う記述式問題も出題する。 <p>② 学習態度等の平常点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<p>3章 物質の変化</p> <p>1節 物質と化学反応式</p> <p>1 原子量・分子量・式量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質量数12の炭素を基準とする原子の相対質量(原子量)と同位体の原子量の求め方を理解する。

2	2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> ・原子量をもとに分子量，式量の求め方を理解する。 ・化学の世界の単位「mol(モル、物質質量)」について理解する。 ・mol から個数，質量，体積が求め方を確認する。 ・質量パーセント濃度，モル濃度の求め方を理解する。 ・化学反応式の書き方を理解する。 ・化学反応式を用い，様々な値の求め方を理解する。 ・化学の基本法則と原子説，分子説を理解する。 ・原子説で気体反応の法則が説明出来ない理由を理解する。
3	学年末試験	
【課題・提出物】・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート ・冬季休業中課題		
【3学期の評価方法】		
① 定期試験の成績(80%) <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の確認とともに、実験について問う記述式問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 		
【年間の学習状況の評価方法】		
各学期の成績を総合して評価する。		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身につけている。 ・学んだ内容が関連付けて整理され定着している。 ・知識を用いて発展的な応用ができる。 ・観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・小テスト ・定期テスト

	<p>し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作の意味をよく理解し，実技のレベルが的確である。 ・実験結果に対する考察が充分であり，その内容を適切に伝達できる。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。 ・授業内容について科学的な捉え方ができる。 ・授業の成果を生かして社会や生活との関連を考えられる。 ・発展的な内容についても思考を展開させられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・演習プリント ・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら物質とそ の変化について関心をもち，意欲的にそれらを探 究しようとするとともに，科学的な見方や考え方を 身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・演習プリント

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

随時、学習相談を実施するので、つまづいている箇所があれば早めに質問してほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践理科基礎(生物基礎)	1	2 学年	Ⅱコース文系

教科書名 生物基礎 (数研出版)

副教材名 スクエア最新図説生物 (第一学習社) セミナー生物基礎 (第一学習社)

スタディアップノート生物基礎 (数研出版)

大学入学共通テスト攻略問題集ビーライン生物基礎 (第一学習社)

1. 科目目標

生物の目標 — 何のために生物を学ぶのか —

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

2. 学力をつける

大学入学共通テストに対応できる学力を構築する。

3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝	生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。
		第3節 呼吸と光合成 1 学期中間試験	
	6	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報と DNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現 1 学期期末試験	遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。また、転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。

【第1学期の評価方法】

- ① 定期試験の成績 (80%) ② 学習態度等の平常点 (20%)

2 学 期	9	第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節	多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境が一定に保たれているしくみや調節方法について学習する。また、循環系、腎臓、肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。
	10	第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき 2学期中間試験	
11	11	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	植生について、その構造や遷移のしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られ、バイオームの分布は、気温と降水量によって決まることを理解する。また、生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていることを理解する。
	12	第2節 植生の分布とバイオーム 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全 2学期期末試験	

【第2学期の評価方法】

- ① 定期試験の成績 (80%) ② 学習態度等の平常点 (20%)

3 学 期	1	大学入学共通テスト攻略問題集ビーライン生物基礎（第一学習社）を用いた復習 3学期期末試験	すでに学習した生物基礎の内容を單元ごとに総復習を行い、知識の定着、基礎力の養成を図る。
	2		

【年間の学習状況の評価方法】

- ① 定期試験の成績 (80%) ② 学習態度等の平常点 (20%)

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
思考・判断	・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
技能・表現	・生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとら	・授業時の様子 ・課題提出

	え、それを表現することができる。	・定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、学習相談を実施しています。 ・ 授業内容と問題集の橋渡しとして、単元ごとに演習プリントによる演習を行います。
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	2	2	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育
副教材名 現代高等保健体育ノート

1. 教科目標

- | |
|--|
| <p>(1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身につける。</p> <p>(2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。</p> |
|--|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<p>集団行動</p> <p>① 集合・隊形</p> <p>② 方向変換・列の増減</p> <p>体づくり運動・体育理論 (通年を通して行う)</p> <p>(1) 体づくり運動</p> <p>① 体ほぐしの運動</p> <p>② 実生活に生かす運動の計画</p> <p>(2) 体育理論 運動やスポーツの学び方</p> <p>スポーツテスト(新体力テスト) 5月から9月の期間に行う 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・ 反復横跳び・持久走・50m走・立ち幅 跳び・ハンドボール投げ</p>	<p>集団の一員として迅速に、かつ安全に行動する。</p> <p>・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己の課題を理解する。</p> <p>・主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合う姿勢を育成する。</p> <p>・以下の6項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。</p> <p>①スポーツの技術と戦術</p> <p>②技能の上達過程と練習</p> <p>③効果的な動きのメカニズム</p> <p>④技能と体力</p> <p>⑤体力トレーニング</p> <p>⑥運動やスポーツでの安全の確保</p> <p>自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を作る。</p>
	5	<p>ハンドボール</p> <p>①オリエンテーション</p>	<p>・動画を視聴しながら歴史やルール・用具設備について理解する。</p>

6 7	<p>ルールや用具設備の説明</p> <p>②ボール慣れ パス回し シュート 簡易ゲーム</p> <p>③役割や戦術をふまえたゲーム それぞれのポジションの役割 ディフェンスの仕方</p> <p>④スキルテスト ⑤知識理解を確認するテスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの大きさに慣れスムーズなパスキャッチ・パス回しができるようにする。 ・ランニングシュート・ステップシュート・ジャンプシュートなどさまざまなシュートが打てるようになる。 ・ゴールキーパーやコートプレイヤーの役割を理解する。 <p>ゾーンディフェンスにおける攻防の仕方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じたスキルテストを行う。 ・ルールや用具・施設設備に関するペーパーテストを行う。
【課題・提出物】なし		
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>①実技試験（60%）</p> <p>ハンドボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルテストによる評価。 ・ペーパーテストによる評価。 <p>スポーツテスト</p> <p>②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	バスケットボール ① 状況に応じたボール操作 シュート パス ドリブル ② 戦術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防御をかわして相手陣地やゴール付近にボールを運ぶことができる。 ・ 味方が作り出した空間にパスを送ることができる。 ・ 空いた空間に向かってボールをコントロールして運ぶことができる。 ・ 仲間と連携して相手ゴール近くへ侵入する攻撃方法と、その動きに対応して空間を埋めるなどの防御の動きで攻防を展開することができる。
	10	③ ゲーム 試合方法やルールを工夫し、試合を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを通して仲間と協力し合う楽しさや喜びを味わうことができる。 ・ 審判や運営に積極的にかかわり、仲間と協力してゲームを進めることができる。
	11	陸上競技（長距離）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の持っている体力を知り日常の運動習慣を向上させる。
	12	① ジョギング ② 持久走 バドミントン ① グリップ・リストスタンド 用具の扱い方 ③ ストローク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体づくり運動と共に心肺機能向上を目的とする。 ・ グリップの握り方や、手首の使い方について理解する。 ・ フォアハンド・バックハンドの正しいフォームを習得し、ラケットの中央でシャトルを捉える。
			【課題・提出物】なし
		【第2学期の評価方法】 ① 実技試験（60%） <ul style="list-style-type: none"> ・ バスケットボール シュート、パス、ドリブル等のスキルテストによる評価。 ・ 仲間と協力し公正なゲームができる。 ② 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・ 正しい服装で授業へ参加できている。 ・ ルール等の確認テスト。 	
	月	学習内容	学習のねらい

3 学 期	1	バドミントン	サービス時のルールを理解させロング、ショートサービスを使い分けるようにする。 基本的なルールを理解する。 ハイクリアー、ドロップなどの球種を理解しゲームのなかの攻防に組み入れることができるようにする。
	2	③ サービス ④ ルールの理解 ⑤ ラリーの組み立て方	
	【課題・提出物】なし		
【第3学期の評価方法】			
①実技試験（60%） バドミントン ・サーブ、スマッシュ等の試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。			
②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。			
【年間の学習状況の評価方法】 学年末の評定は1学期・2学期・3学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況（40%） 以上を総合して評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	欠席が少なく、授業への参加態度が良好である。 安全に配慮して学習に主体的に取り組もうとする。 多様性を理解し仲間と協力することができる。 健康・安全に配慮した服装ができる。	実技テスト 確認テスト 記録 観察
思考・判断・表現	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。 1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。 2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており、ゲームに生かすことができる。	記録 観察

	<p>3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い，攻防を展開できる技能を有する。</p> <p>4. ミニゲームの審判を務めることができる。</p>	
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう，運動の合理的，計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>1. 欠席が少なく，授業への参加態度が良好である。</p> <p>2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし，学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。</p> <p>3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。</p>	記録 観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上，基本は授業内で実施をするが，必要性や状況に応じて対応する。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
保健	1	2	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育

副教材名 現代高等保健体育ノート

1. 教科目標

健康・安全について理解を深めるようにし、自らの健康に興味を持ち、適切に管理していく能力を育てる。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	3 単元 生涯を通じる健康 1. ライフステージと健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフステージと健康の関連について理解する。 ・ 各ライフステージで活用できる社会からの支援について理解する。
	5	2. 思春期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期における体の変化を、女性と男性に分けて理解する。 ・ 思春期の心の発達にかかわって起こる問題について理解する。
		3. 性意識と性行動の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性意識の男女差について理解する。 ・ 性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを、理解する。
	6	4. 妊娠・出産と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠・出産の過程における健康課題について理解する。 ・ 妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。
		5. 避妊法と人工妊娠中絶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族計画の意義と適切な避妊法について理解する。 ・ 人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について理解する。
		6. 結婚生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心身の発達と結婚生活の関係について理解する。 ・ 結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動を理解する。
	7	7. 中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢にともなう心身の変化について理解する。 ・ 高齢社会に必要な社会的な取り組みについて理解する。
【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【1学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	8. 働くことと健康	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義と健康とのかかわりについて理解する。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について理解する。
	10	9. 労働災害と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害の種類とその原因について理解する。 ・労働災害を防止するために必要なことを理解する。
		10. 健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解する。 ・余暇を積極的にとることの意義について理解する。
	11	4 単元 健康を支える環境づくり	
		1. 大気汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因と健康への影響について理解する。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について理解する。
		2. 水質汚濁, 土壌汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・水質汚濁, 土壌汚染の原因とその健康影響を理解する。 ・大気, 水, 土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて理解する。
12	3. 環境と健康にかかわる対策	<ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解する。 ・産業廃棄物の処理について理解する。 	
	4. ごみの処理と上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの処理の現状やその課題について理解する。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を理解する。 	
	5. 食品の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と健康とのかかわりについて理解する。 ・食品の安全性に関する今日的課題について理解する。 	
		6. 食品衛生にかかわる活動	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解する。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について理解する。
【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【2学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点 (保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況)			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> 保健行政の役割について理解する。 保健サービスの活用について理解する。 わが国における医療保険のしくみについて理解する。 さまざまな医療機関の役割について理解する。 医薬品の正しい使用方法について理解する。 医薬品の安全性を守る取り組みについて理解する。 国際機関・民間機関などの保健活動について理解する。 行政機関による社会的対策について理解する。 健康の保持増進のための環境づくりについて理解する。 環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを理解する。
	2	9. 医療品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策	
	3	11. 健康に関する環境づくりと社会参加	
【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【3学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）			

【年間の学習状況の評価方法】

100点法にて評価（試験・平常点で総合評価する）

《詳細》

(1) 各学期評価【試験における素点の80%+平常点20%にて評価】各学期、年度末とも

(2) 年度末評価【(1学期素点+2学期素点+3学期素点)÷3+年間平常点素点÷3にて評価】

(3) 平常点の算出

・授業に対する評価・スモールテスト・DVD視聴、まとめレポートにて、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の観点で総合評価する。

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ペーパー試験において、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する。 授業中に知識や技能を用いる場面を設定する。実習や体験を行う。 	定期試験 豆テスト 観察
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 論述やレポートの作成、発表。グループでの話し合いなどを行う。 	レポート 観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ノートやレポートによる記述。 授業中の発言。 自己評価。 	観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

質問に関しては、随時教科担当者が対応する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語コミュニケーションⅡ	4	2	Ⅱコース

教科書名 BLUE MARBLE English Communication Ⅱ (数研出版)
副教材名 BLUE MARBLE English Communication Ⅱナビゲーションノート (数研出版)
BLUE MARBLE English Communication Ⅱワークブック (数研出版)
英単語ターゲット 1900 (旺文社)
進研 WINSTEP 英語リスニング 2 (ラーンズ)
共通テスト実力養成 重要問題演習 2023 共通テスト 英語リスニング (ラーンズ)

1 科目目標

英語の言語活動を通じて日常的な話題・社会的な話題を学習することで、的確に情報や考えを理解したり適切に表現したりするコミュニケーション能力を育成する。また、各課においては概要や要点を捉えたり、論理展開を確認したり、様々な言語活動を通じて多面的・多角的に考察する力を育成する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Lesson 1 Leadership in Modern Times 社会・人生 現代社会において求められるリーダーシップについて	<ul style="list-style-type: none"> ・強調構文 (It is ~ that . . .) について学習する。 ・倒置 (否定語+V+S) の語順を学習する。 ・省略 / 無生物主語構文について学習する。
	5	Lesson 2 The Diversity of Traditional Houses 地理・文化 世界の伝統家屋の特徴と、それらが現在果たす役割について	<ul style="list-style-type: none"> ・未来完了形 (will + have + P.P.) について学習する。
		【進研 WINSTEP 英語リスニング 2】 UNIT1~10 【英単語ターゲット 1900】 No.1~60 1 学期中間試験	
	6	Lesson 3 Improving Society with Avatar Robots	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞+have+P.P.について学習する。 ・進行形の受動態 (be+being+P.P.) について学習

7	<p>福祉・科学 社会の「孤独」を解消するため、1人の男性が生み出した「分身ロボット」について</p> <p>Lesson 4 Approaches to Food Waste</p> <p>環境・社会 食品ロスの現状と、私たちにできる身近な取り組みを考える</p> <p>【進研 WINSTEP 英語リスニング 2】 UNIT11~20 【英単語ターゲット 1900】 No.61~120</p> <p>1学期期末試験</p>	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 完了形の受動態(have / has / had + been + P.P.)について学習する。 完了不定詞 (to+have+ P.P.) について学習する。 完了動名詞 (having+P.P.) について学習する。 be to do について学習する。 独立不定詞について学習する。
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークブック 単語テスト 		
<p>【1学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度） 		
月	学習内容	学習のねらい
2 学期	<p>9 Lesson 5 Animals as Indispensable Partners</p> <p>動物・福祉 私たちのよりよい暮らしと社会をサポートしてくれる動物たちについて</p> <p>Lesson 6 An Irish Poet on a Mission</p> <p>言語・文学 翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人について</p> <p>【進研 WINSTEP 英語リスニング 2】 UNIT21~25 【重要問題演習 英語リスニング】 第1問 A / B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分詞が補語になる用法について学習する。 分詞構文について学習する。 先行詞を含む関係副詞について学習する。 複合関係詞について学習する。

		<p>【英単語ターゲット 1900】 No.121～180</p> <p>2学期中間試験</p> <p>11 Lesson 7 Be Free from Gender Bias 社会・人権 身近にひそむ男性／女性への偏見と、それをなくそうとする取り組みについて</p> <p>12 Lesson 8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees 国際・平和 難民保護に尽力した「小さな巨人」、緒方貞子の信念とは</p> <p>【重要問題演習 英語リスニング】 第2問 ①～第4問B ⑤</p> <p>【英単語ターゲット 1900】 No.181～240</p> <p>2学期期末試験</p>	<p>・比較の慣用表現 (rather than, what is + 比較級) について学習する。</p> <p>・仮定法現在 (request that S + (should) do) について学習する。</p>
		【課題・提出物】 ・夏期休業期間中の課題 ・ワークブック ・単語テスト	
		【2学期の評価方法】	
		・定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験）	
		・平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）	
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Lesson 9 Tackling Global Warming 環境・科学 地球温暖化の新しい対応策，ジオエンジニアリングの利点・欠点を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・長文読解の力を身につける。 ・写真等の画像を見てその状況を英文で述べる力を身につける。 ・実際に起きている地球上の様々な問題について英語で意見を述べる力を身につける。
	2	Lesson 10 Keys to Finding Happiness 人生・心理 「幸せ」を自分で切り開く方法を科学的に見てみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・長文読解の力を身につける。 ・抽象的なテーマを科学的に解明した英文を読み，考察する力を身につける。

3	【重要問題演習 英語リスニング】 第5問 1～第6問 B 5 【英単語ターゲット 1900】 No.241～300 3学期期末試験	
【課題・提出物】 ・冬期休業中の課題 ・ワークブック ・単語テスト		
【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）		
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（5回実施される定期試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期の平常点の平均点）		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各 Lesson のテーマについて、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 ・各 Lesson のテーマに関する英文を読み／聞き、その内容を理解する技能を身に付けている。 ・新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解している。 ・新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開の理解を基に、各 Lesson のテーマについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 	定期試験 単語テスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、内容の描写や状況の推測について表現している。 ・質問の意図を理解し、各 Lesson のテーマについて、自分の意見を述べたり、相手からの質問に答えたりしている。 ・各 Lesson に関する英文を全 Part 通して読み／聞き、概要を捉えている。 ・本文の内容を簡潔にまとめ、適切なつなぎ表現を用いて話したり／書いたりしている。 	授業時の様子 課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、内容の描写や状況の推測について表現しようとしている。 ・質問の意図を理解し、各 Lesson のテーマについて、自分の意見を述べたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。 ・各 Lesson に関する英文を全 Part 通して読み／聞き、概要を捉えようとしている。 	授業時の様子 課題

	<ul style="list-style-type: none"> ・発音，読解，文法に関する学習事項が直前のレッスンのどこで用いられているかを理解しようとしている。 ・身近なテーマに関する設定を理解し，ターゲットとなる文法事項を使って質問に答え，自分の意見を表現しようとしている。 	
--	--	--

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- ・授業には予習をして参加しましょう。①音声を聞く。②単語を調べておく。③音読をする。（最低でも3回）この基本の3つを徹底すると，授業の理解度アップにつながる。
- ・授業中は声をしっかり出して，音読学習を意識し，リスニング力の向上につなげよう。
- ・定期試験までに各レッスンのワークブックをきちんと仕上げしておくことで，試験に自信を持って臨める。あとからまとめてやろうとせずに，その都度ワークブックを広げる習慣をつけ，わからないと思ったら，遠慮なく授業担当者に質問してほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
論理・表現Ⅱ	3	2	Ⅱコース

教科書名 Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace (啓林館)
 副教材名 Vision Quest 論理・表現Ⅱ Ace WORKBOOK (啓林館)
Vision Quest 総合英語 (啓林館)
Pair & Share③ <リピトレ版> (いいずな書店)
大学入試4技能試験対応 コア表現トレーニング 上級編 (旺文社)

1 科目目標

「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる能力を育成する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Lesson 1 What is your future goal? 【話題】 将来の目標：子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解する。	【言語】 適切な主語を用いる：主語の選択や主語になる名詞句、形式主語の概念を理解し、適切な文を学習する。 【表現】 目標と達成：自分の目標と達成のために必要なことについて、文と文のつながりを意識して書くことを学習する。 【論理】 文と文をつなぐ：先行する文の内容を代名詞の置き換えや this で受けたり、つながりの言葉を用いたりすることで、文と文の論理関係を適切に理解する。
	5	Lesson 2 What school events do you have? 【話題】 学校生活：学校で新しい友達を作る方法について書かれた文書を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解する。 【Pair & Share③】 Lesson1~2 【コア表現トレーニング 上級編】 Lesson1~8 1 学期中間試験	【言語】 適切な動詞を用いる：自動詞と他動詞を使い分けたり、群動詞を適切に用いたりして文を書くことを学習する。 【表現】 好きな学校行事：自分の高校の行事について紹介する文章を、パラグラフの構成に意識して詳しく書くことを学習する。 【論理】 パラグラフ(パラグラフの基本構成/列挙・順序)：パラグラフの基本構成を学び、列挙・順序のパターンを用いた論理的な構成やつながりの言葉を適切に用いて、書くことを学習する。

6	<p>Lesson 3 Who is the best athlete?</p> <p>話題 スポーツ：スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解する。</p>	<p>言語 時を表す：現在・過去・未来を表すために、適切な動詞の形や文の構造を理解する。</p> <p>表現 好きなアスリートと業績：自分の好きなアスリートと業績について、パラグラフの構成に意識して詳しく書くことを学習する。</p> <p>論理 パラグラフ（例示・追加）：例示・追加のパターンを用いた論理的なパラグラフの構成やつながりの言葉を適切に用いて、書くことを学習する。</p>
7	<p>Lesson 4 Is social media safe?</p> <p>話題 情報時代：ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解する。</p> <p>【Pair & Share③】 Lesson3~6 【コア表現トレーニング上級編】 Lesson9~17</p> <p>1 学期期末試験</p>	<p>言語 義務・必要・推量を表す：義務・必要・推量を表すために、助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解する。</p> <p>表現 ソーシャルメディアの利点と欠点：ソーシャルメディアの利点と欠点の比較について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書くことを学習する。</p> <p>論理 パラグラフ（比較・対照）：比較・対照のパターンを用いた論理的なパラグラフの構成やつながりの言葉を適切に用いて書くことを学習する。</p>
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト 		
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験）</p> <p>平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）</p>		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>Lesson 5</p> <p>How does overusing energy affect us?</p> <p>話題 環境問題：エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。</p>	<p>言語 情報を加える (1)：形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解する。</p> <p>表現 エネルギーの使い過ぎによって引き起こされる問題：エネルギーの使い過ぎによって引き起こされる問題について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書くことを学習する。</p> <p>論理 パラグラフ (原因・理由・結果)：原因・理由・結果について述べる論理的なパラグラフの構成やつなぎの言葉を適切に用いて書くことを学習する。</p>
	10	<p>Lesson 6</p> <p>What are some culture differences?</p> <p>話題 文化：異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解する。</p> <p>【Pair & Share③】</p> <p>Lesson7~9</p> <p>【コア表現トレーニング上級編】</p> <p>Lesson18~23</p> <p>2学期中間試験</p>	<p>言語 情報を加える (2)：関係代名詞や関係副詞を用いた文の構造を理解する。</p> <p>表現 訪れたい国と文化：訪れたい国とその国の文化について、自身の主張や理由の根拠を示して書くことを学習する。</p> <p>論理 主張や理由の根拠を示す：主張や理由の根拠となる情報を示し、資料や他者の言葉の引用や出典を表す表現を適切に用いて書くことを学習する。</p>
	11	<p>Lesson 7</p> <p>Do all Japanese people need to speak English?</p> <p>話題 言語教育：第二か国語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。</p>	<p>言語 情報を加える (1)：形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解する。</p> <p>表現 第二公用語としての英語[書くこと]：日本の第二公用語としての英語の導入の賛否に関する記事を読んで、文章全体の概要と構成を理解する。</p> <p>論理 リーディングの要約：精読と多読の2つの読解方法について書かれた記事を読んで、文章全体の構成と要点・要約をまとめる手順を理解する。</p>

	12	<p>Lesson 8 Is Japan open enough?</p> <p>話題 社会：日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解する。</p> <p>【Pair & Share③】 Lesson10~13 【コア表現トレーニング【上級編】】 Lesson24~29</p> <p>2 学期期末試験</p> <p>Lesson 9 What if you were rich?</p> <p>話題 願望：もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解する。</p>	<p>言語 情報を伝える：相手に情報を伝えるために、直接話法、間接話法、また様々な伝達表現を用いて適切な文の形や構造を理解する。</p> <p>表現 日本の社会：職場の観点から考えた日本の社会に関するプレゼンテーションを聞いて、全体の概要と構成を理解する。</p> <p>論理 リスニングの要約：日本の教育制度の目標について話されるプレゼンテーションを聞いて、文章全体の構成と要点・要約をまとめる手順を理解する。</p> <p>言語 条件と仮定を表す：条件や仮定を用いた適切な文の形や構造を理解する。</p> <p>表現 想像上の状況：宝くじが当たり、大金を手にしたらという仮定の状況を想定し、自分の考えや主張をまとめる表現を学習する。</p> <p>論理 スピーチ：スピーチの構成や伝え方を意識して、自分の考えや主張を伝える表現を学習する。</p>
		<p>【課題・提出物】</p> <p>・夏期休業中の課題 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト</p>	
		<p>【2学期の評価方法】</p> <p>定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）</p>	
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<p>Lesson 10 How might AI affect our lives?</p> <p>話題 科学技術：AI と共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解する。</p>	<p>言語 数量を表す：可算名詞と不可算名詞の使い分けや数量を表す表現，割合・数量の変化を表す表現や文の構造を理解する。</p> <p>表現 AI と共に働くこと：AI と共に働くときに重要な事について，自分の考えやその根拠を示す表現を学習する。</p> <p>論理 プレゼンテーション：プレゼンテーションの構成や伝え方を意識して，資料やデータなどの資料を提示しながら，自分の考えや主張を話す表現を学習する。</p>

2	<p>Lesson 11 What is a healthy life?</p> <p>話題 健康：健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解する。</p>	<p>言語 比較を表す：原級比較，比較級，最上級を表す表現や文の構造を理解する。</p> <p>表現 睡眠時間の賛否：「7時間以上の睡眠を取るべきか」という議題について，賛否の意見をまとめる表現を学習する。</p> <p>論理 ディベート：ディベートのルールや手順，構成を理解する。</p>
3	<p>Lesson 12 What is important when we sell chocolate?</p> <p>話題 ビジネス：商品の販売について書かれた文章を読んで，否定を表す表現を用いた文の構造を理解する。</p> <p>【Pair & Share③】 Lesson14~18 【コア表現トレーニング【上級編】】 Lesson30~42</p> <p>3 学期期末試験</p>	<p>言語 否定を表す：否定を含む語や部分否定，準否定などの否定を表す表現や文の構造を理解する。</p> <p>表現 チョコレートを販売する上で重要なこと：チョコレートを販売する上で重要なことについて，自分の意見や主張を考え，根拠となる資料を示しながら，話す表現を学習する。</p> <p>論理 ディスカッション：ディスカッションのテーマについて，自分の考えや主張を述べたり，グループのメンバーの意見をまとめたりする方法を学習する。</p>

【課題・提出物】

- ・ 冬期休業期間中の課題 ・ 授業用ノート
- ・ ワークブック ・ 小テスト

【3学期の評価方法】

定期試験素点：80%（期末試験）

平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）

【年間の学習状況の評価方法】

定期試験素点：80%（5回実施される定期試験素点の平均点）

平常点：20%（各学期の平常点の平均点）

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項及びその働きや役割を理解している。</p> <p>[技能] 目的や場面，状況に応じて，自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して，詳しく書く技能を身につけている。</p>	<p>左に示す観点及び内容に基づいて学期ごとに評価し，学年末に5段階評価の評定にまとめる。</p>

思考・判断・表現	目的や場面，状況に応じて，自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して，詳しく話したり書いたりできる。	学習に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価する。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手・読み手など他者に配慮しながら，主体的・自立的に表現しようとしている。	<p>【評価対象】</p> <p>(a) 授業中の活動への取り組み状況</p> <p>(b) ノート・ワーク・課題等の提出物</p> <p>(c) 小テスト・定期考査等のペーパーテスト</p>

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

授業中の活動を大切に。間違いを恐れずに積極的に授業に参加しましょう。一つの単元が終わるごとにワークブックに取り組むと、知識が定着する。少しでもわからないと感じたら、遠慮なく教科担当に質問してほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
家庭基礎	2	2学年	I・IIコース

教科書名 気づく力 築く未来 家庭基礎

副教材名 生活学 N a v i 資料+成分表

気づく力 築く未来 授業ノート

1. 科目目標

・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	ガイダンス・食物アレルギーについて	・学習の意義や内容、持ち物、評価の方法などを理解する。食物アレルギーについて把握する。
		第1章 これからの人生について考えてみよう	
		1 自分の未来予想図を描こう	・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・自分の特徴や長所に気づき、人生を展望できるようにする。
		2 これからの人生をデザインする	・人生設計に必要な要素を理解する。 ・自分の将来とこれからの社会について考える。
	5	第2章 自分らしい生き方と家族	
		1 自立と共生	・自立の種類とそれぞれの具体的な内容を把握する。 ・男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解する。
		2 ライフキャリア	・労働の種類、またその意義について多面的に検討する。 ・労働を支える社会や地域のしくみを知る。
		3 共に生きる家族	・結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族の抱える課題などを理解する。
		4 家族に関する法律	・家族に関する法律の理念や背景、改正点につい

6	<p>第3章 子どもとかかわる</p> <p>1 子どもとは</p> <p>■DVD 視聴 「生命の誕生2」</p> <p>○妊娠疑似体験</p> <p>2 子どもの発達</p> <p>○育児体験</p> <p>3 子どもの生活</p> <p>4 子どもをはぐくむ</p> <p>5 子どものための社会福祉</p> <p>第4章 高齢者とかかわる</p> <p>1 高齢社会に生きる</p> <p>■DVD 視聴 「高齢者の特徴」</p> <p>2 高齢期を知る</p> <p>○高齢者疑似体験</p> <p>3 高齢期の自立を支える</p> <p>4 高齢社会を支えるしくみ</p>	<p>て理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律は自分たち一人ひとりの認識にもとづく社会の要請を受けて検討, 改正されていくことを理解する。 ・育児を学ぶ意義について理解する。 ・10代の健康が, 将来生まれてくる子どもにつながっていることを理解する。 ・妊娠疑似体験を通して, 妊娠中の女性の大変さを知り, パートナーとして助け合うことの大切さに気づく。 ・子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもは, 親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。 ・新生児の抱き方, ミルクの与え方, げっぷのさせ方, オムツの取り替え方を知る。 ・子どもの食生活・衣生活, 遊びについて理解を深める。 ・子どもを生み, 育てる意義について理解する。 ・親子関係の課題を理解し, 解決に向けてできることを考えることができる。 ・子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 ・子どもの権利と福祉の歩みについて理解する。 ・高齢者, 高齢社会への理解を世界の動向からも深める。 ・高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解する。 ・高齢期の心身の変化による生活行動の不安に気づき, 改善をする。 ・要介護の高齢者に対して必要な心がけを理解する。 ・介護保険制度について理解する。 ・介護をめぐる課題について理解する。
---	--	--

		1 学期期末試験（15時間）	
		【課題・提出物】	・学習ノート、小テストなど
		【第1学期の評価方法】	
		①定期試験の成績（60%）→知識・理解の確認とともに、調理に関する基礎的知識も出題する。	
		②学習態度等の平常点（40%）→実習課題等の提出状況（30%）、授業態度（10%）を評価する。	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第5章 社会とかかわる 1 支え合って生きる 2 共生社会を生きる ○調理実習の説明・栄養価計算 ●第1回 調理実習 和食の献立 「魚のなべ照り焼き、すまし汁」	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 ・将来に向けた課題に気づく。 ・支え合う社会の大切さやボランティア活動を理解し、ボランティア活動に興味・関心が持てるようする。 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようにする。 ・栄養価計算の方法を知り、実践する。 ・切り身魚の扱い方を学ぶ。 ・和風だしの取り方を学ぶ。
	10	第6章 食生活をつくる 1 日本の食文化の形成 2 私たちの食生活 ○調理実習の説明・栄養価計算 ●第2回 調理実習 中華の献立 「回鍋肉、粟米湯」	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食文化の成り立ちを理解する。 ・和食の特徴を理解する。 ・自身の食生活の現状把握と課題を知る。 ・炒め物のコツを知る。 ・片栗粉でのとろみのつけ方を知る。
		3 栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。
		4 食品の選び方と安全	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに旬の食材があることを理解する。 ・表示の読み方を理解し、情報を正確に把握し、よりよい選択ができるようにする。 ・食中毒に対する予防法を理解する。 ・食品添加物について理解する。
	11	5 食事の計画と調理	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の食生活の計画と管理ができるようになる。

	<p>6 これからの食生活を考える</p> <p>第7章 衣生活をつくる</p> <p>1 人と衣服のかかわり</p> <p>2 衣服の素材の種類と特徴</p> <p>3 衣服の選択から管理まで</p> <p>■DVD 視聴 「衣服と装いの科学」</p> <p>2 学期期末試験（17時間）</p> <p>■DVD 視聴 「ホームプロジェクト」</p> <p>☆冬休み課題「ホームプロジェクト」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解する。 ・日本の食料自給率の現状をしり、日本の食糧事情を解決するためにできることをみつける。 ・情報に惑わされることなく安全な食品を選択できるようになる。 ・食の安全と環境に配慮した食生活を送ることができるようになる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人はなぜ衣服を着るのか理解する。 ・衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。 ・繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようにする。 ・衣服の加工技術について理解する。 ・衣服の表示内容やその意味を理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。 ・生活の中で、よりよく暮らすための解決方法を考える。 ・ホームプロジェクトの課題を見つけ、冬休みに調査・研究を行いレポートにまとめる。
<p>【課題・提出物】</p> <p>・学習ノート、小テスト、調理実習の記録など</p>		
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績（60%）→知識・理解の確認をする。</p> <p>②学習態度等の平常点（40%）→実習課題等の提出状況（30%）、授業態度（10%）を評価する。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
1	○ホームプロジェクト発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会を通して、自分のホームプロジェクトの内容を反省・評価する。また他者のホームプロジェクトの発表を聞き、内容を評価し、参考にする。
3	第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいはどのような機能を持ち、人の生活が

学 期	1 人間と住まい 2 住まいの文化 3 住まいを計画する	その機能とどう関わっているか理解する。 ・日本の伝統的な住居の特徴や暮らし方の工夫を見つける。 ・日本の住居の変遷、生活様式を理解する。 ・ライフステージや住む人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。
	2 ■DVD 視聴 「見つけよう、マイルーム」 4 健康に配慮した快適な室内環境 5 安全な住まい	・生活行為と住空間のかかわりや、住空間の違いによって住まいの居住性が異なることを理解する。平面図の基礎的知識を学び、平面図から住空間が読み取れるようになる。 ・健康的な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。 ・安全で長く住み続けるために必要な住居の管理の方法を理解する。 ・自然災害や人災など様々なケースに応じた防災対策について理解する。 ・家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。
	第9章 消費行動を考える 1 消費行動と意思決定 2 消費生活の現状と課題 ■DVD 視聴 「消費生活とトラブル防止」 3 消費者の権利と責任 4 ライフスタイルと環境	・消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。 ・情報リテラシーを身につける大切さを理解する。 ・契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。 ・売買契約のトラブルや消費者問題から消費者を救済する法律や制度について理解する。 ・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。 ・資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行できる。
	第10章 経済的に自立する 1 暮らしと経済	・日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすることができるようになる。 ・家計と国民経済、国際経済の関係性に気づく。
3		

	2 将来のライフプランニング	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の構造を理解し、適切な家計管理ができるようにする。 ・金融商品を知り、生活設計とかわらせて、長期の経済設計の必要性について理解する。
	学年末試験（14時間）【年間46時間】	
	【課題・提出物】	・学習ノート、小テスト、ホームプロジェクトなど
	【第3学期の評価方法】	
	①定期試験の成績（60%）	→知識・理解の確認をする。
	②学習態度等の平常点（40%）	→実習課題等の提出状況（30%）、授業態度（10%）を評価する。
	【年間の学習状況の評価方法】	・学年末の成績は、各学期の総合成績を総合して評価する。

3. 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・学習ノートやワークシートなどへの取り組み ・ホームプロジェクトでの実践
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの考察内容 ・グループワークへの取り組み
主体的に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・調理実習や疑似体験等への取り組み ・ホームプロジェクトの内容、発表態度

4. 学習サポート（事前・事後学習について）

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族や家庭生活について関心を持ち、その中にある問題点を把握し、その解決策を考える思考力を身につけましょう。 ・家庭科の学習を実際の生活と結びつけ、実践的・体験的な学習活動やグループ活動へ積極的に取り組みましょう。 ・衣食住に関する知識や技術を身に付け、ホームプロジェクトを充実させましょう。 <p><定期試験に向けて></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業の内容をしっかりと復習する。（学習ノートやプリント等を見直すこと） 2、提出物の確認をすること。 	
---	--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
情報 I	1	2 学年	I・IIコース

教科書名 高校情報 I JavaScript (実教出版)

副教材名 ポイント整理 情報モラル (数研出版)

1 科目目標

- ①効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- ②様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- ③情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ガイダンス ● PC・教室利用について ● PCの個人設定 ● タイピング 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCの個人設定を行い，利用環境を整える。 ・タイピングソフトの利用の仕方を確認し，タイピングに取り組む。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報の表現の工夫 ● 文書作成ソフトの操作方法について ● 課題の保存と提出の操作方法について 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書作成ソフトの操作方法を学び，表現の工夫を理解する。 ・課題の取得・保存・提出をできるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2進数と10進数・16進数 ● 2進数とは何か ● 10進数とは何か ● 16進数とは何か ➤ コンピュータの構成とインターネットの利用について ● コンピュータを構成している要素について理解する ● インターネットの利用の仕方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータにおける数値の取り扱いは，2進数・16進数で行われることを理解する。 ・2進数・16進数を用いた数の表現について理解する。 ・コンピュータはハードウェアとソフトウェアから構成されていることを理解する。 ・コンピュータの五つの機能について理解する。 ・インターネット利用の注意点を理解する。
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報のデジタル化① ● アナログとデジタル ● 情報量を表す単位について ● bitとは何か 	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルの相違を理解する。 ・コンピュータで扱うデータの最小単位のbitを理解する。
	7	1学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・情報量の単位の変換を理解する。

	【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題		
	【1学期の評価方法】 ① 学期末試験 50% 1学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。 ② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。 ③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	▶ 情報のデジタル化② ● 音声のデジタル化の仕組み ● 音楽 CD の記憶の仕組み ▶ 情報のデジタル化③ ● PC での画面表示と解像度 ● 光の 3 原色 ● 画像の諧調と情報量	・ 音声を 2 進数であらわされる数値データに変換する過程を理解する。 ・ コンピュータにおける画像の表現方法を理解する。
	10	▶ 情報の圧縮 ● 情報の圧縮の考え方について ● 音・画像・動画の圧縮 ▶ 個人情報と知的財産権 ● 個人情報の取り扱いについて ● 知的財産権について ● プレゼンテーションソフトを用いたグループ演習	・ データの様々な圧縮形式について理解する。 ・ 情報社会に関わる様々な法律の名称とその役割を学び，情報を保護する必要性や，個人が担う責任について理解する。 ・ プレゼンテーションソフトの操作方法を学ぶ。
	11	▶ HTML 文の書き方① ● Web ページとは何か ● Web ページ作成の準備 ● 基本的なタグ	・ プレゼンテーションを通し，情報の発信の仕方を学ぶ。 ・ Web ページが HTML という言語によって記述されていることを学ぶ。
	12	▶ HTML 文の書き方② ● 様々な HTML タグについて ● カラーコード 2 学期期末試験	・ 実際に簡単な自己紹介の Web ページを作成することによって，HTML の基本的なタグを理解する。 ・ HTML の様々なタグを学ぶ。
		【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題	
	【2学期の評価方法】 ① 学期末試験 50% 2学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。 ② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。 ③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。		

	月	学習内容	学習のねらい
	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ HTML を用いたグループによる情報発信 ● グループ演習 学年末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度なHTMLのタグを学ぶ。 ・情報を発信することの責任について理解する。 ・他者と協力して情報発信をすることを学ぶ。
3 学 期	【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題		
	【3学期の評価方法】 ① 学期末試験 50% 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。 ② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。 ③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末と3学期末の成績を統合して評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し，技能を身に付けているとともに，情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート ・実技演習課題
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技演習課題
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の取り組み ・タイピングテスト

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけ，ブラインドタッチに挑戦しましょう。 ・実技については，毎時間課題を課します。時間ごとの内容を確認するのでしっかり覚えましょう。
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
総合的な探究の時間	1	2 学年	Ⅱ

1 科目目標

<p>学習指導要領における目標</p> <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<p>日本大学および 日本大学東北高等学校の教育目標</p> <p>『自主創造』</p> <p>自主的に学び、考え、広く世界的視野を持つ新しい自分、心豊かな自分を創造すること。</p> <p>※日本大学マインド</p> <p>多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力</p> <p>異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。</p> <p>社会に貢献する姿勢</p> <p>社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。</p>
--	---

踏まえて

踏まえて

<p>本校において定める「総合的な探究の時間」の目標</p> <p>探究が自律的に行なわれるような学習環境の整備に努め、他者と協働的に取り組む中で、新たな価値を見つけ、自己の生き方や社会・職業などについて考え、発展的に自己の進路実現に向かっていくような学習展開がなされることを目標とする。</p>

<p>「総合的な探究の時間」において育てようとする資質や能力及び態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒自身が、これまでの学びを相互に関連付けながら課題を発見し、解決する能力 自律的・主体的に学習活動に取り組むことができる資質 他者と協働して課題に取り組む態度 自己の生き方や社会の諸問題について考え、発展的に自身の進路実現に向かっていく態度
--

相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的にはたらくようにする。

他教科で身に付けた資質・能力

2 各学年の目標および探究するテーマ

1 年次：「自己理解とキャリア探究」 働く意義について考える。探究の基礎を学ぶ。

2 年次：「自己啓発」 自ら課題を発見・追究・表現・解決する

興味・関心、身近な疑問に基づくテーマ、地域社会に関するテーマ

3 年次：「自己実現」 実体験を通じて社会に学び、社会への共生を図る。

学術的テーマまたは社会問題や企業課題に関するテーマ

3 学習計画及び評価方法

学期	回	月日	活動内容	活動のねらい
	0	4/17(月)	探究オリエンテーション	課題設定
1 学期	1	4/26(水)	探究活動 1-①	情報収集
	2	5/10(水)	探究活動 1-②	整理分析
	3	5/17(水)	探究活動 1-③	まとめ
	4	5/31(水)	探究活動 2-①	課題設定
	5	6/ 7(水)	探究活動 2-②	情報収集
	6	6/14(水)	探究活動 2-③	整理分析/プレゼン動画作成
	7	6/21(水)	探究活動 2-④	まとめ/プレゼン(表現)
2 学期	8	9/ 6(水)	探究活動 3-①	課題設定
	9	9/13(水)	探究活動 3-②	課題設定
	10	9/20(水)	探究活動 3-③	情報収集
	11	10/18(水)	探究活動 3-④	情報収集
	12	10/25(水)	探究活動 3-⑤	整理分析/プレゼン動画作成
	13	11/ 1(水)	探究活動 3-⑥	整理分析/プレゼン動画作成
	14	11/15(水)	探究活動 3-⑦	まとめ/プレゼン(表現)
	15	11/29(水)	探究活動 3-⑧	まとめ/プレゼン(表現)
	16	12/13(水)	探究活動 4-①	課題設定
	17	12/20(水)	探究活動 4-②	課題設定
3 学期	18	1/17(水)	探究活動 4-③	情報収集
	19	1/31(水)	探究活動 4-④	情報収集
	20	2/ 7(水)	探究活動 4-⑤	整理分析/プレゼン動画作成
	21	2/14(水)	探究活動 4-⑥	整理分析/プレゼン動画作成
	22	2/21(水)	探究活動 4-⑦	まとめ/プレゼン(表現)
	23	2/28(水)	探究活動 4-⑧	まとめ/プレゼン(表現)

3-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄えなど、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価。 学習や活動の状況など
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、まとめ・発表している。	

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p>	<p>の観察記録による評価。 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p>
----------------------	--	--

3-(2) 評価基準 (ルーブリック)

	十分満足できる (A)	概ね満足できる (B)	努力を要する (C)
<p>知識・技能 知識・技能</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。</p>
<p>課題を発見する力 思考・判断</p>	<p>自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。</p>
<p>課題を解決する力 思考・判断</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析することができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠けた部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。</p>	<p>データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。</p>
<p>考えを他者に伝えることができる力 表現</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。</p>	<p>発表するための準備が不十分である。</p>
<p>自律的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。</p>	<p>課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。</p>	<p>活動に意欲的に取り組むことができない。</p>
<p>他者と協働する力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>班員と目標を共有し、価値観や意見の異なる人の意見も尊重し協力して活動できる。</p>	<p>班員と協力して活動できる。</p>	<p>班員と協力する姿勢が見られない。</p>